

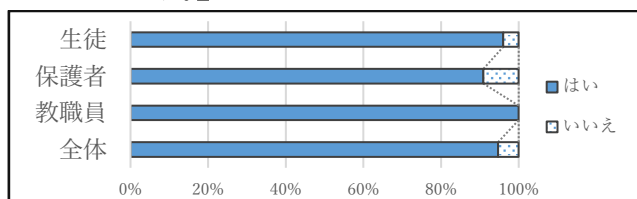
令和5年度学校評価アンケート分析結果 I：基礎学力の向上

生徒対象の質問は「あなたは・・・」、保護者対象の質問は「お子様は・・・」、教職員対象の質問は「生徒は・・・」等で表記している。

1 (1) 先生方の教え方はわかりやすいですか。

・生徒・保護者・教職員ともに9割以上が「はい」と回答しました。

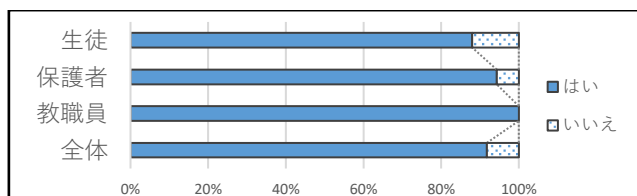
『全体的に「はい」と回答していますが、昨年度に比べると若干減少しています。ICT機器を活用し、よりきめ細かな学習指導を展開すると同時に、生徒の実態に合わせた個別指導や学習支援を実施していきます。』



2 (1) 1年間の授業時数は、十分に確保できていると思いますか。

・保護者・生徒・教職員のほとんどが「はい」と回答しました。

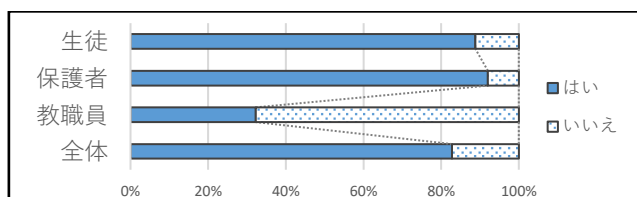
『昨年度に比べて生徒にも授業時間の確保や進捗について理解が進んだものと考えますが、中には授業だけでは足りないと感じている生徒もいます。進路に合わせた個別指導や選択科目の充実を図っていく必要があります。』



3 (1) 「必履修科目」「履修」「修得」といった言葉を理解していますか。

・生徒・保護者の9割が「はい」と回答しました。一方、教職員は3割しか「はい」と回答しませんでした。

『生徒や保護者は、履修、修得の意味を理解していると思っっているようですが、教職員からすると、まだまだ理解が不十分であると感じているようです。今後、教科のガイダンスや進路指導の中で、生徒の単位制システムに対する理解をよりきめ細かく手助けする必要があります。』

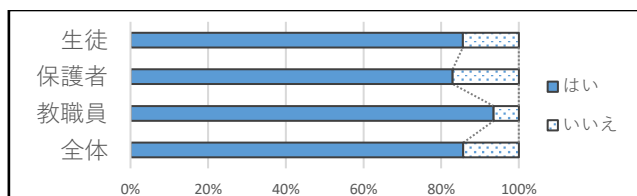


令和5年度学校評価アンケート分析結果 I：基礎学力の向上

4（1）基礎学力は向上したと思いますか。

・生徒・保護者・教職員の8割以上が「はい」と回答しました。

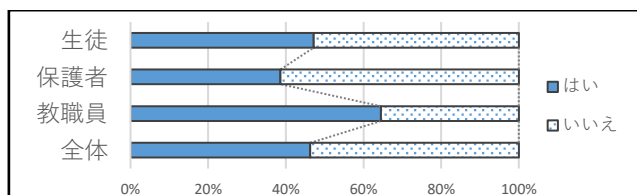
『昨年度よりも教職員の「はい」という回答が増加し、生徒・保護者は同程度となっています。生徒の学習に関する評価をより明確化し、授業での取り組みや週末課題・進路講座などで確かな学力向上を図っていく必要があります。』



4（2）家庭学習を行っていますか。

・生徒・保護者の5割未満、教職員の6割が「はい」と回答しました。

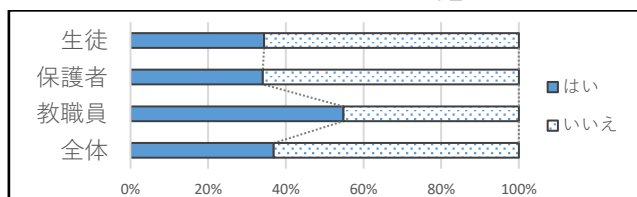
『生徒の家庭学習状況は昨年と変化ありません。家庭における勉強全体としてはまだまだ家庭学習の習慣が身につけていない様子です。』



5（1）読書する習慣が身についていますか。

・教職員を除き、生徒・保護者で4割を下回っています。

『一人一台端末の整備やICT機器の利用により、活字離れの傾向があります。図書館の利用やホールルームでの読書活動を増やし、読書する機会を増やす必要があります。各教員間で共通の認識を持って取り組まなければなりません。』



総合所見

ICT機器の活用や学び合い、グループ学習など、授業の展開を工夫し、基礎学力の定着を図るように教職員は努めています。また、本校の習熟度別授業は、生徒の学力に応じた授業内容に合わせることができるため、基礎学力の向上に最適であると考えています。生徒の大部分も、教え方が工夫されていると感じているようです。また、学校設定科目を含む選択授業により、生徒が希望する進路に合わせた学習や、「みどりベース」といった中学校の学び直しの時間をより充実させることで、本校の生徒の実態に沿った多様な学びが展開できるようにしてはなりません。本校での学習が、進路活動、さらには卒業後の人生へとつながっているというキャリア教育の促進が必要かと考えます。